



Nursing

in TOKYO

会報「看護とうきょう」

Vol. 127
2018.August



特集

平成 30 年度 通常総会
特別講演

大切にしたい 自分の体

—2度の子宮がんを経験して

原 千晶さん

看護師 玉木 忍い

(1874 ~ 1957)

第 4 回フローレンス・
ナイチンゲール記章受章

所蔵先「日本赤十字看護大学史料室」

常務理事あいさつ  3
 平成30年度 総会報告・改選役員の紹介・理事会開催報告 4
 第16回 看護フェスタ 5
 特集 平成30年度 通常総会 特別講演 大切にしたい自分の体 講師 原千晶さん 6
 TOPICS 人 御手洗幸子さん 8
 保助看のページ 10
 施設めぐり マギーズ東京 12
 チーム医療の現場から 14
 第51回 看護研究学会報告 16
 第52回 看護研究学会 お知らせ 16
 第51回 看護学生看護研究学会 お知らせ 16
 「初心者向け英会話研修」2年目突入! 17
 ちょっと一言 英会話 Time 17
 みんなの広場 癒しの空間「山に魅せられて」 18
 みんなの広場 わたしの好きなとうきょう「走って身体もこころもリフレッシュ!」 19
 教育部研修係から 20
 動画でわかる! 診療報酬改定のポイント  20
 東京都ナースプラザだより 21
 新会館建築状況報告 22
 図書室だより 23
 平成30年度 春の叙勲 23
 会員係からのお知らせ 24

※「看護とうきょう」は協会ホームページにも掲載しています。

未入会の方に入会をすすめましょう

平成30年度東京都看護協会会員数 **46,132名** (平成30年7月31日現在)

	保健師	助産師	看護師	准看護師	計
会員数	427名	2,054名	43,104名	547名	46,132名
就業数	3,762名	3,792名	104,744名	13,476名	125,774名
入会率	11.4%	54.2%	41.2%	4.1%	36.7%

就業数は平成28年12月31日現在の「東京都における看護師等業務従事者届集計報告」による

表紙 のひと

玉木忍 (1874-1957)



所蔵先「日本赤十字看護大学史料室」

第4回フローレンス・ナイチンゲール記章受章

看護師。明治17(1874)年、東京府出身。
 明治31(1898)年、看護婦生徒として日本赤十字社病院看護婦養成所に入学。
 明治34(1901)年、養成所を卒業し、同病院に勤務。
 明治37(1904)年、日露戦争の際、病院船に乗船し救護に従事。
 大正3(1914)年、第一次世界大戦の際、病院船に再乗船し患者輸送に従事。この時の功績が称えられ、ルーマニア国皇帝よりレジナ・マリア勲章を授与される。
 大正11(1920)年、シベリア事変の際、救護婦長としてサハリンに出動し、救護に従事。
 昭和2(1927)年、慈愛に富んだ精神と熟達した技術、身を犠牲にして人道のために尽くした戦時看護の功績が認められ、第4回フローレンス・ナイチンゲール記章を受章。
 日本赤十字社病院で看護婦長として看護婦生徒の教育にも携わり、昭和32(1957)年に死去。

ごあいさつ

公益社団法人 東京都看護協会
事業部担当 常務理事
黒田 美喜子



動画で配信

会員の皆様には平素から当協会活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さる6月21日(木)、日本教育会館におきまして、平成30年度の東京都看護協会通常総会を開催し、関係者の皆様のご支援により全てのプログラムが滞りなく終了いたしましたことをご報告させていただきます。

平成30年度の重点課題は、

1. 地域包括ケアの推進のための「協働する力」を高める。
2. 看護の資質の向上・人材育成に向けた「仕事力向上」を目指す。
3. 看護職の確保定着のための「イノベーション力」を発揮する。
4. 新会館建て替え建設事業の遂行と新会館を「知の拠点」とする。

以上4点を達成するためには、首都東京で働く12万人の看護職の知力とパワーを集結させ、骨太の組織とする必要があります。会員数6万人を目指し、事業部会員係が中心となり組織拡大に向けて行っている活動をご紹介します。

今年度新規の取り組みとして、本協会の会員係が、組織拡大に向けて会員の倍増計画を戦略的に展開しています。

その一つとして、こちらから病院や施設にお邪魔して入会案内をいたします。手始めに4月の新任看護職を対象として、10施設の看護部長さんにご協力をいただき、新任研修やオリエンテーションの合間の昼休み、研修終了後に15分ほどお時間をいただき入会の説明をいたしました。

入職して間もないフレッシュな新人の明るい笑顔や緊張した面持ちの中にも、専門職となった方々は看護協会の存在意義や入会方法を真剣に聞いてくださいました。

その際に、看護部長さんや教育担当部長さんとお話する機会もあり、施設での会員の管理方法や施設マイページの使用方法についてご質問をお受けし、さらに当協会への要望を直接お聞きすることもできました。今後も看護職員が集まる院内研修などにお呼びいただけましたら積極的にお出向き、会員様と協会が顔の見える連携を行っていきたくと思っていますので、ぜひ当協会事業部会員係までご連絡ください。

私たちは、お声を掛けていただければもちろん伺いいたしますが、さらに会員の皆様の声を直接聞くために定期的な施設訪問も計画しています。また、研修の要望や、会館の使用に関すること、協会に支援してほしいことなど、忌憚のないご意見を伺いながら、魅力ある東京都看護協会を目指して参ります。現在、新しい会館を建築中です。そこは皆様と一緒に集える場所であり、一人でも多くの看護職が協会員で良かったと思っていただけるよう、西新宿4丁目が日本の「看護の聖地」となるよう、準備を進めています。建築の進捗状況につきましては、協会ホームページからも確認できますのでどうぞご覧ください。

ぜひとも、今年の会員係の活動に一層のご協力とご支援のほどよろしく願いいたします。

当協会の話を真剣に聞いてくださる、新人ナースたち



平成30年度 総会報告

- 開催日:平成30年6月21日(木)
 - 開催時間:10:10~15:10
 - 開催場所:日本教育会館 一ツ橋ホール
 - 参加者:代議員229名 一般会員141名 役員・事務局19名 【合計】389名
- 議決事項、報告事項については、当協会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.tna.or.jp/index.php/about/general_meeting/

平成30年度 改選役員の紹介



会長(2期目)

やまもと けいこ
山元 恵子
東京都看護協会



副会長(2期目)

まつもと ひろこ
松本 弘子
東京大学医学部
附属病院



常務理事(2期目)

おおはし すみえ
大橋 純江
東京都看護協会



財政担当理事(新任)

ふじの きょうこ
藤野 恭子
医療法人社団厚友会
足立東部病院



保健師職能理事(3期目)

いけしま みちこ
池島 美智子
荒川区福祉部
高齢者福祉課



准看護師理事(新任)

はんざわ ひろゆき
半澤 啓至
薫風会 山田病院



東部地区理事(新任)

さくま あゆみ
佐久間 あゆみ
東京都済生会向島病院



中部地区理事(2期目)

やなぎはら れいこ
柳橋 礼子
聖路加国際病院



多摩南地区理事(3期目)

いとう ゆみこ
伊藤 由美子
東海大学医学部附属
八王子病院



監事(新任)

かわかみ じゆん
川上 潤子
日本赤十字社
医療センター

平成30年度 理事会開催報告

- 平成30年4月19日 第1回 理事会
 - 平成30年5月17日 第2回 理事会
 - 平成30年6月21日 第3回 理事会(臨時理事会)
- 詳細は当協会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.tna.or.jp/index.php/about/rijikai_hokoku/

2018年看護の日・看護週間

第16回 看護フェスタ

5月12日、新宿駅西口広場イベントコーナーで2018年看護の日・看護週間第16回看護フェスタが開催されました。「看護の心をみんなの心に」をテーマに掲げ、協力団体やスタッフを含めて約1,500名が参加。都民のみなさんをはじめ、健康・医療に興味を持つ幅広い参加者が来場、健康チェックや健康・医療相談コーナーなどを通し、自分の身体のことを考える機会となりました。

知っているためになる看護セミナー

東京都看護協会のコーナーでは新しい取り組みとして、認定看護師と当協会役員による看護セミナーを開催しました。日頃病院で活躍する認定看護師の専門知識を、都民のみなさんにもわかりやすく伝えようという試みです。「脳卒中予防とFASTチェック」、「褥瘡のケア」など、実際の写真を見ながらのセミナーには、多くの方が惹きつけられて熱心に聞き入っていました。協会役員によるセミナーでも活発な質疑応答が行われ、参加者から貴重なご意見も伺うことができました。

看護セミナーは今回が初の試み。多くの方にためになったと喜んでいただきました



キッズ白衣で看護師の仕事体験



白衣に着替えて、いざ看護師体験!

白衣と聴診器を身に付けて、看護師のお仕事体験。楽しみながら、看護のお仕事を体験してみようということで、白衣に着替えたお子様にチェキで撮影した写真をプレゼント。予想以上に多くの方に立ち寄っていただきました。未来の看護師に看護のこころが伝わったのでしょうか?

「赤ちゃんの抱き方ってどんな感じ?」
出産・子育てなんでもご相談に応じます



看護学校進学相談

東京都のコーナーでは、看護学校の進学相談も行われ、都立看護学校の学生さん達が熱心に相談に応じていました。受験生からは看護学生の普段の生活や勉強についての質問が多く投げかけられ、現役看護学生と受験生の活気あるやり取りが見られました。

正しい手洗い法を知って、感染を防ごう!



AEDの使い方、心臓マッサージの行い方を優しくレクチャー

毎年楽しみに来場して下さる方や今年が初めての方も、所狭しと設置されたコーナーで体験や測定をしたり、熱心に質問や相談をしたりと積極的にイベントに参加されていました。その他、新宿区食品衛生協会手洗い推進部長「新宿あわわ」も来場し、子ども達に大人気。例年にも増して活気に溢れた大盛況の一日となりました。

子どもたちに大人気の「新宿あわわ」



特集

大切にしたい自分の体 ——2度の子宮がんを経験して

講師：原千晶さん
よつばの会 代表/女優・タレント

6月21日に開催された、通常総会の特別講演にて、女優・タレントの原千晶さんにご講演いただきました。2010年に子宮がんであることを公表された原さん。

がん宣告から現在の活動にたどり着くまでの心の機微、思いを率直に語っていただきました。

「女性特有のがんに苦しむ人がひとりでも少なくなるように」。

苦しい経験をした原さんだからこそその願いが、聴く人の心に響きました。

無知が引き起こした2度目のがん

「原さん、今なら単純に子宮をとるだけで済む。総合的に判断して、私は全摘を勧めます」

子宮頸がんが発覚し、主治医の先生にこう言われたのは2005年のことでした。あまりの衝撃で、頭が真っ白になりました。私はそのとき30歳。これから結婚して子どもを産んで……と女性としての幸せを思い描いていた時期だったので、「単に子宮をとるだけ」とはどうい思えませんでした。私は、先生の勧めに反して子宮を温存します。

温存するなら定期的な検診を、と強く言われていたのに、2年ほどで検診に行くのもやめてしまいました。「なぜ私だけがずっとがんに縛られて生きていかなくてはいけないの？ 同世代の女性たちはみんなそんな心配をせずに暮らしているのに」と嫌になってしまったのです。私はが

んについてまったく無知だっただけでなく、正しい知識を得ようとすらしていませんでした。

しかし2009年、再び婦人科系の不調に見舞われ病院に行った私は、5年前の「今なら子宮をとるだけで済む」という言葉の意味を知ることになりました。子宮体がんになっていたのです。以前の子宮頸がんよりずっと悪性の高いがんで、進行していました。

そこでやっと目が覚め、私は準広汎子宮全摘出術を受けました。続いて抗がん剤治療も。それから丸8年。治療のおかげで、今は元気に生活できています。

失っただけ、得るものもある

自分自身の無知と、まわりに婦人科系のがんを患っている人がいない孤独から、私はがん患者としては悪い見本のような道のりをたどりました。その経験から、2011年、婦人科系のがんの人が経験や思いを語り合える場として「よつばの会」という患者会を立ち上げました。

がんになれば失うものは大きい。とくに婦人科系のがんは特有の辛さがあります。けれど、その失ったものを埋め合わせるほどの大きな何かを得られることも実感しています。私にとってその何かは、よつばの会を通じてたくさんのお会いに恵まれ、自分の経験をお話することで誰かの役に立てることでした。

医療従事者以外の方にお話しするのは控えめにしていますが、実は昨年、遺伝子検査を受けました。やはり私のがんになりやすい遺伝子をもっていることがわかりました。でも、「なぜ私だけが？」という疑問に答えが出てすっきりしましたし、今後、自分が注意すべきポイントがわかったのだから、と前向きに受け止めています。

こうした検査や治療法が進歩することで「がんは怖くない」といえる時代が来るといいなと心から願っています。そして、女性特有のがんに苦しむ人がひとりでも少なくなるように、私はこれからも、自分の経験や得た知識をさまざまな世代の女性にお伝えしていきたいと思っています。

原千晶 (はら ちあき)

1974年生まれ。94年から芸能活動をスタート。2005年に子宮頸がん、09年には子宮体がんと診断され、準広汎子宮全摘出術と抗がん剤治療を受ける。10年にがん体験を公表し、11年には婦人科系がんの患者会「よつばの会」を設立。現在はテレビ出演など芸能活動を続けながら、患者会活動や自身の体験を語る講演を全国で行っている。



原千晶さん | スペシャルインタビュー

看護師さんとの かかわりから 生まれた思い

女性特有のがんを乗り越えるにあたって、精神的に支えてくれたのは女性同士でもある看護師たち。闘病中に気づかされたこと、感謝の気持ち、頑張る看護師へのメッセージをお届けします。

身の「治りたい」という気持ち、「自分も病気を治す側の一員なんだ」という意識を育て、サポートしてくれている感じがしました。

とはいえ抗がん剤治療は本当に苦しく、もうやめてしまおうと本気で考えたこともありましたが、でもそれを看護師さんに訴えたら、「辛いけどがんばりましょう」ではなく、「我慢しすぎないで。辛さに対処する方法はいろいろあるからね」と。それでどれだけ気持ちが楽になったかわかりません。6クールを無事に終えられたのはこうして支えてくださった看護師さんたちのおかげです。

病気の経験が患者を安心させることも

看護師さんの中にもがんなどの大きな病気を経験されたり、治療をしながら働いていらっしゃる方もいることと思います。そうした方のお話を伺うこともありますが、みなさん、自分の体のことを不安に思うよりも、この経験を病棟でいかしたいっておっしゃるんですね。その強さとたくましさには胸を打たれます。

もし私のがん患者として入院していて、担当の看護師さんに「私もがんになったことがあるのよ」と言われたら、どんなにほっとするでしょう。病気になった経験をいかして患者さんを安心させることができるのは経験者であればこそですね。

ただ、自分の体より人のことを優先してしまいがちな方も多いかと思いますが、どうぞ、ご自身の体の声には耳を傾け、まずはご自身の健康を大事になさってください。そしてその上で、多くの患者さんの支えになっていただけたらとてもうれしいです。

「治りたい気持ち」が引き出された

抗がん剤治療の2クール目で入院した初日、「ここは病院だし、私はがん患者なんだし、髪が抜けかけのざんばら頭だって誰も驚かないでしょ」という気の抜けた状態で、私はケア帽子もかぶらずにベッドに座っていました。

けれど、そこに入っていらした看護師さんが、私の頭を見て一瞬だけ驚きの表情をされました。もちろんプロですから、0コマ何秒というわずかの間に平静に戻って「体調どう？」とにこやかに話しかけてくれたんですが、それが「病院だから患者はどんな姿を見せてもいい、と思うのは甘えすぎだな」と気づききっかけになりました。

私はつい、「病院は病気を治してくれる場所。患者は治してもらおう側」という意識になりがちだったので、医療側の方々だけでなく患者も「治ろう」とする当事者でなくては病気は治せないとですね。そういうことを看護師さんは、おそらくある時は意識的に、ある時は無意識に、押しつけることなく、日常のちょっとした会話やアイコンタクトを通じて私に気づかせてくれました。

副作用で調子が悪かった日の翌日には、看護師さんが「昨日は具合が悪かったと聞いたけど、今日はどう？」と聞いてくれる。そこで私が「昨日より調子がいいです」と答えると「よかったです」と喜んでくださる。そうすると私もサービス精神が刺激されて、「明日はもっとよくなったと言いたい、人が喜ぶ顔が見たい」となってくるんですね。そうして、患者自

患者の意思決定を支え、連携の軸に。 広がる遺伝看護の可能性

保健師、助産師、看護師の世界で活躍する一人の人物をクローズアップし、紹介する本コーナー。

第3回目は、2017年に誕生した遺伝看護専門看護師として幅広い活躍が期待される

御手洗幸子さんにお話をうかがった。

「女優のアンジェリーナ・ジョリーが乳がん予防のために乳房切除手術を受けた」というニュースが世界中を駆けめぐったのは2013年。ちょうどその時、御手洗さんは大学院で遺伝看護を学んでいた。

「がんゲノム医療は日進月歩の勢いで進展している。ならば遺伝看護を専門的に学んだ看護師が必ず現場で必要となる。そう考えていた聖路加国際大学の有森直子先生に遺伝看護を学ばないかとお誘いを受けて、病院で働きながら大学院に通っていました」



志を同じく、ともに歩み続ける、初代遺伝看護専門看護師の仲間たち（後列中央が御手洗さん）

2017年末には日本初の「遺伝看護専門看護師」が5名誕生した。御手洗さんはそのうちのひとりだ。

遺伝看護とは、遺伝性疾患をもつ人やその可能性がある人を対象とする看護。がんゲノム医療だけでなく、家族性ALSといった神経・筋疾患や胎児の染色体異常など分野は多岐に

わたり、患者や妊婦本人だけでなく、その家系につながる家族・親族へのケアも行う。

出発点は妊婦さんへの「意思決定支援」

助産師資格をもつ御手洗さんの原点は、産科の現場だった。

「妊娠と同時にがんを患っていたことがわかった妊婦さんがいらっしゃいました。その方は、出産を諦めて治療

を優先するか出産してから治療をするか、非常に難しい決断を迫られました」

妊婦さんは悩みに悩んでやっと結論を出しても、家族の反対を受けてまた迷う。

「そうした時に支えるのは助産師の役目です。がん治療と出産だけでなく、出生前検査について悩まれる方もたくさんいます。妊婦さんの意思決定に看護職はどう関わっていくべきか。その問いがぼんやりと、でもずっと心の片隅にありました」

しかし、産科での意思決定支援に関心があった御手洗さんが、より広範に遺伝看護を学ぼうとしたのはなぜなのだろう？

「実は、その何年か前に『実践家としてもっと力をつけるために理論を学びたい』というちょっとあいまいな理由で大学院に進学しようとして一度失敗してるんです」

大学院は完成した理論を教えてもらう場所ではなく、自身で研究テーマを定め、追究していく場所だが、「その頃はそんなことも知らなくて」と御手洗さんは笑う。

ところがその後、意思決定支援研究の第一人者である有森直子教授（現 新潟大学）に「遺伝看護に興味がある？」と聞かれた時、道が定まった。

「これまで助産師として現場で見てきたことや経験してきたこと、考えてきたことが一本につながったのを感じました」

新型出生前検査がもたらす戸惑い

妊婦の採血だけで胎児の染色体異常が検査できる新型出生前検査（NIPT）が日本でスタートしたのも、御手洗さんが聖路加で学んでいた2013年だった。簡便で胎児へのリスクがないことから検査へのハードルが下がり、検査の限界や検査後についてあまり深く考えずに

遺伝看護を学ぶことになり、これまで現場で見たこと、経験したこと、考えてきたことが一本につながったと感じました

受ける人が増えることが予想された。

2017年にテレビで放送され、話題になったドラマ「コウノドリ」では、カウンセリングもせずに出生前検査を実施し、結果を郵送するだけという検査機関が登場したが、あれはまったくのフィクションではなく、すでに起きている現実だ。

「NIPTは新しい技術です。検査で妊婦さんがショックを受けるようなことが起きた時、『何も考えずに検査を受けた本人が悪い』と突き放すのは酷。検査を受けるかどうか迷っている段階から助産師が支援しなくては」

とはいえ、現状では日本中の助産師に最新の出生前検査について十分な知識があるとはいえず、もしあっても外来のわずかな時間で丁寧なカウンセリングをするのは物理的に難しい。出生前検査にまつわる意思決定支援が機能するには多くの課題があることを、御手洗さんは現場でもひしひしと感じていた。

意思決定を支える小さな冊子

大学院を修了してからも研究は続いた。

「出生前検査に関心がある妊婦さんに、ご自身の考えや知識を整理してもらうためのガイドブックを作りました。カナダにあるOttawa大学の先行研究を参考に、医師や看護師、当事者の方々にもヒアリングをして」

なぜ検査を受けよう（受けたい）と思ったのか、その検査によって目的は果たされるのか、検査によるリスクを知った上で受け入れるか、予想外の結果が出た時にはどうするか……。検査を受けるか受けないかを主体的に判断する助けになるよう、工夫をこらした。

「この研究は東京都看護協会の『先駆的研究』の助成を受けることができました。そのおかげで妊婦さんの手にとってもらいやすい小冊子として仕上げることもでき、

略歴
NTT 関東通信病院附属高等看護学院修了後、NTT 関東通信病院へ入職。
東京都立医療技術短期大学 専攻科助産学専攻修了後、助産師として東京都立築地産院へ入職。
学士取得、都立看護専門学校教諭などを経て、2005年からNTT 東日本関東病院へ勤務。
2015年、聖路加看護大学大学院 看護学研究科看護専攻 遺伝看護学上級実践コース 博士前期課程（修士課程）修了。



いま、私の病院では実際に助産師がカウンセリングに使ったり、妊婦さんに手渡されたりしています」

御手洗さんの研究と理論はいま、たしかに実践へとつながっている。

実践と啓発と連携と体制づくり

専門看護師は、現場の看護実践だけでなく、看護職全体の知識・意識を底上げするための啓発活動や、診療科や職種をつなぐ連携医療のハブとなることも強く期待されている。

遺伝疾患は多くの場合、診療科をまたがる。たとえば婦人科系のがんであれば外科や婦人科、放射線科や腫瘍内科、子に遺伝する疾患なら小児科や心療内科との連携が必要となることもある。

「連携の軸になるのはもちろん、いずれは遺伝相談室の設置など、院全体の遺伝カウンセリング体制を整えていけたら」

遺伝看護専門看護師としての仕事はまだ始まったばかり。やりたいことは山ほどある。

「認定されるまで本当に多くの方が支えてくれましたから、これからは私が、この専門を活かしてお返ししたいと思っています」

保 助 看 のページ

～2年目になって～

看護師

ターミナル期にある患者さんとご家族への関わりを通して

武蔵野赤十字病院 坂名城 静香



精神的なケアの重要性を感じた1年間

臨床に出てから1年間を通して、患者さんの治療や身体的な異常がないかを確認するのはもちろんですが、それだけではなく、ご家族を含めた精神的なケアを行うことの重要性を知ることができました。そのことを特に感じたのが、ターミナル期の患者さんを受け持ったときのことでした。

患者さんは入院当初、最低限の生活は自立して行えるほどのADLで、ご家族が毎日面会に来られ、患者さんの生活の援助を積極的に行っていました。入院日数が経過し、患者さんのADLが急激に低下、意識もほとんどない状態まで悪化していくなか、ご家族もずっとそばで見守っていました。そういった中で、どのようなケアが患者さんやご家族の希望に添うことができるのかを考え、とても悩みました。

先輩看護師と相談しながらケア内容を考え、これまでご家族が毎日面会に来られ、患者さんのケアに参加していたのを思い出しました。患者さん

は意識レベルが低下し、ベッド上でほとんど動かなくなった際、看護師と共に洗髪や足浴・手浴を行うことをご家族に提案すると、「できるなら私も一緒にやりたいです」との発言が聞かれました。実際に看護師と共に実施し、ご家族は「気持ちいい。聞こえるかしら」と穏やかに声をかけながらケアを行いました。

その数日後、患者さんは息を引き取られ、その際に付き添っていたご家族と一緒にエンゼルケアに入り、出棺まで付き添われました。その後、看護師がご家族を見送る際、「髪や足を洗うのを一緒にさせてもらってありがとうございます。何かできたことがうれしかったです。本当によくしていただきました。お母さんもここに入院してよかったと思います」という発言が穏やかな表情で聞かれました。それを聞き、私が行ったケアが可能な範囲でご家族の精神的なケアにつながったと感じ、うれしく思いました。

患者さんやご家族の望む看護の提供を目指す

ターミナル期にある患者さん、そのご家族の関係性や死に対する受け入れ状態は様々だと思います。これからも、どのようなケアを行うことで患者さんやそのご家族が望む最期を迎えることができるのかを考え、看護を提供していきたいと思っています。



毎日大変ですが、充実しています

保健師

社員の健康づくりのサポートを

株式会社とらうべ 尾崎 あかね

やりがいを感じる予防活動

私が働いている「株式会社とらうべ」は、創業30年になります。産業保健では、携わる部門に保健師・管理栄養士がおり、業務委託されている企業の健康管理室へ出向いて業務に携わっています。

私が担当している企業は、定期健診後のフォローとして、社員全員に保健師面談をしています。たとえば、血圧が高い社員に対し、健康状態の改善を目指すよう生活へのアドバイスをしていますが、自覚症状が乏しいので、ご自分の健康状態への危機感も薄いことが多いです。

助産師

初心を忘れず2年目へ

東京北医療センター

高橋 杏樹



念願の助産師1年目

助産師として入職してから早1年、12人の同期と共に2年目を迎えました。

入職当初は緊張と不安で右も左もわからず、看護ケアを行う以前に自分自身のことでも手いっぱいの日々を送っていました。そんな私達に先輩方は根気強く、そして優しく、看護とは何か、助産師として何ができるか、を丁寧に教えて頂きました。日々妊産婦さんに接する先輩方を見ると、助産師としてのあり方そのものについて考えさせられ、こんな助産師になりたいと憧れを抱きながら、今も仕事に励んでいます。

「思いやり」が見える看護ケアを

1年目の終わりころからは、分娩介助に入らせていた



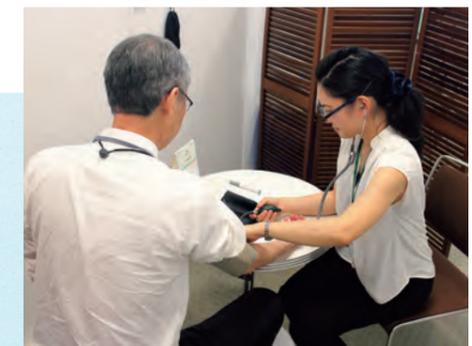
だくようになり、産婦さんとそのご家族に接する機会も多くあり

かわいい赤ちゃん！ようこそ

ました。その中で関わった産婦さんから、「あなたにいてもらえてとても心強かった。私達に真摯に向き合おうとしてくれていたのがよくわかった。初心を忘れずに頑張ってくださいね」という言葉を頂いたことがありました。その時に私は分娩に関わることだけが助産師の仕事ではない、人としてどのように関わっていくかが大切なのだ気づかされました。まだまだ技術は未熟ですが、妊産婦さんやそのご家族の話を聞いて理解しようとする、共に辛い時間を乗り越えるケアや関わりは今の私にもできることであるため、今後もこの言葉を忘れずに成長していきたいと感じています。

そして、これから2年目として、1年目の時に感じた悔しさや楽しさ、頂いた沢山の言葉を忘れずに、妊産婦さんとそのご家族の大切なライフイベントが思い出深いものとなるように、安全・安心なケアを提供できるように頑張りたいと思います。

また、2年目となり後輩が入ったことで、1年目にこんな助産師になりたいと憧れを抱いたように、私自身も「寄り添う思いやり」が見える助産師でありたいと思います。



来訪者の応対場面

そのような社員に、生活改善をしてもらうために、言葉で伝えることは難しいと感じる場面もあります。しかし、何度も顔を合わせるうちに社員との関係性が築かれ、社員自ら近況報告に来て下さることもあります。概して個々の変化は緩やかですが、面談や講話を通して、社員ひとり一人の健康意識の変化を見守ることができ、やりがいにもつながっています。

海外赴任者の健康度を高めるための活動

健康管理室として、海外赴任者全員の健康管理も任されています。働き始めた当初、赴任者へは年1回の健康診断を受けたのち、主にメールで健診後のフォローをしていましたが、返信はないことがほとんどでした。稀に返事があったとしても、文章のみで赴任者の生活状況を

把握したり指導することに、ある程度限界も感じていました。そんな時期に、赴任者が病気になる一時帰国するケースが相次いだのです。そこで、海外赴任者にも国内同様に、社員全員面談を行うことを計画し、今後スカイプを利用した保健師面談を始める予定となっています。

赴任者の健康度を高めるために、この予防活動を定着させることが、2年目に突入した私の目標です。

マギーズ東京

自分自身を取り戻す、「第2の我が家」

住所：東京都江東区豊洲6-4-18
電話：03-3520-9913
URL：http://maggiestokyo.org/
(平日：10時～16時、土日祝：休)



幅が広めにつくられた低反発クッションのソファは、具合が悪くなったときに横になることもできます



樹齢300年のアフリカンチェリーの一枚板を使用したこだわりのテーブル。テーブルの脚は、釘を使わない伝統的な木組みでつくられています



本館と別館をつなぐ渡り廊下。大きな木の柱と中庭の緑に囲まれたこの場所は、さながら森の中



マギーズ東京ってどんな場所？

江東区豊洲、東京湾沿いの一角に陽だまりのようたたずむマギーズ東京。日本人の2人に1人ががんを経験するといわれている現代、がんを経験した人やそのご家族・友人などが、悩み、戸惑っているときに気軽に訪れることができる場所です。

ここでは、病院では聞けないこと、家族や職場には話せないことなどを安心して話すことができます。がんに精通した看護師や臨床心理士にじっくりと話を聞いてもらうことで、来訪する方々が自分自身を取り戻し、次への一步を踏み出すサポートが行われています。

そんなマギーズ東京の特徴を、秋山正子センター長は「病院と家の中間にある、第2の我が家」と表現しています。

マギーズ東京は2016年に開設され、多方面からの心あるチャリティー（寄付や協力）により運営されています。その発祥はイギリスのエジンバラ。乳がんを再発し、余命数か月と宣告されたマギー・K・ジェンクス氏の「がん患者が自分を取り戻せるためのサポートや空間が必要」との強い思いから、1996年に第1号となる「マギーズがんケアリングセンター」が開設されました。この試みが次第に共感を得て、2018年7月現在、イギリス国内の20か所以上で展開され、香港にも1か所開設されています。

イギリスのマギーズセンターの建築コンセプトに従った空間は解放感に溢れ、緑あふれる中庭を抜けると、スタッフの方々が優しい笑顔で出迎えてくれます。1日の来訪者は約20人（男女比約1：3）。がんの種類もステージも年齢もさまざま。誰でも無料で利用でき、来訪予約は必要ありません。いつでも好きな時に立ち

寄り、「第2の我が家」のようにくつろぐことができます。

来訪者は、温かみのある空間に癒され、お茶を飲みながらおしゃべりを楽しんだり、スタッフに悩みを相談したり、思い思いの時間を過ごされています。

また、グループプログラム（食事や栄養についてのミニレクチャーやリラクゼーション、ストレスマネジメント）を週1・2回開催しており、来訪者の方々がふるって参加されています。もちろんこちらも無料です。



光と木のぬくもりに包まれた空間で落ち着いてお話ができます

自分自身を取り戻した、来訪者の声

秋山センター長が、ある来訪者の方との印象的なエピソードを語ってくれました。

検査結果を見た医師に「まあまあだね」と言われ、どう返していいかわからず、たった1分で診察室を後にしたというAさん。不安で眠れない日々を過ごしてきただけに、「このままでは帰れない」と、帰り道に以前から気になっていたマギーズ東京を訪れ、胸の内をスタッフに語りました。話すことによって、何がいちばん気になっているのか、何を医師に聞いてほしかったのかが、はっきりと見えてきました。

1か月後の診察時、聞きたいことをすべてメモに書いて医師に伝えたところ、医師もAさんにきちんと向き合い、すべての疑問がクリアになりました。その日の診察後、マギーズ東京に立ち寄ったAさんは、「今日はすっきりしました」とニコリ。「この前の訪問で、

勇気が出ました」と話したように、自分で考え、自分でできることをみつけて、前向きに行動を起こしたことは、Aさんにとって大きな変化であり、自分らしく生きていくための第一歩となりました。

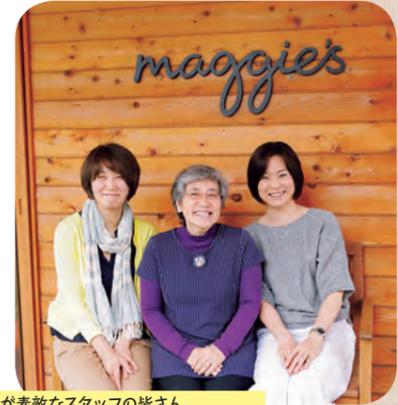
来訪者のこういった変化は日々みられるようで、前向きに生きていこうとする方々の姿を目の当たりにすると、スタッフの皆さんも元気をもらえるそうです。

社会のニーズに応える、新たな取り組み

2018年4月、江東区からの要請を受け、マギーズ東京では月1回の夜間相談窓口を開設しました。通常の開館時間内にくることができない方々にも、寄り添

い、自分自身を取り戻してもらう空間を提供します。

また、マギーズ東京のような施設をつくりたいという方々には、「マギーズ流のサポート」を理解してもらい、実践力を磨く研修を行っています。同じようなコンセプトを持った施設が全国に広がっていくよう、活動しています。



笑顔が素敵なスタッフの皆さん。左から木村晶子さん、秋山正子センター長、岩城典子さん

マギーズ東京 センター長 秋山正子

2008年に国際がん看護セミナーで「マギーズセンター」を知ってから、いろいろな場所でマギーズ開設への思いを語り続け、8年目にマギーズ東京が実現しました。「マギーズセンターはともにもいい施設だけど、それは外国だからできることで、日本では実現しない。」セミナーに参加した皆がそう思っていました。でも、この夢を語って、語っているうちに、共同代表である鈴木美穂さんをはじめとして賛同してくださる方が増え、一緒に働いてくれる人が集まり、夢は実現しました。皆さんも、夢があれば語ってください。きっと仲間が集まり、願いは現実になると思います。

病院とまったく違うこの空間は、体感していただかなければわかりません。建築にも、人の心身を癒す工夫が施されています。ぜひ一度オープンマギーズ*にいらしてください。お待ちしております。

*開館時間内に来られない方、マギーズ東京の見学や説明を受けたいという方のために、毎月第4土曜日13:00～16:00に施設を開放しています。変更になる可能性もあるため、来訪前にホームページなどでご確認のうえ、お越しください。



地域包括ケア病棟

JCHO 東京高輪病院

地域包括ケア病棟 師長 このみ ひさこ 許斐 久子



多職種で患者さんにとっての 最善を模索するやりのある仕事

平成 26 (2014) 年度、診療報酬改定に伴い新設した本院の地域包括ケア病棟 (49床) は、看護師 20名と多職種との協働により運営している病棟です。それぞれの立場から、患者さんにとっての最善を一緒に模索しているチームでもあります。

入院対象となる患者さんは、①リハビリテーションをご希望の方 ②急性期治療を終え、入院継続を希望されている方 ③在宅調整などが必要な方 ④自宅での介護が一時的に困難な方としています。急性期治療後すぐに在宅に戻れない方、回復に不安のある方が家庭で暮らせることを目標に、またレスパイト入院も受け入れています。

地域包括ケア病棟の看護師の主な役割は、①退院後の生活に向けての患者・家族の意思決定への

支援 ②疾患や ADL に合わせた環境整備・調整 ③患者・家族への退院に向けた調整や指導 ④多職種と患者をつなげることです。

急性期とは違い、検査なども最小限です。しかし、高齢の方は何かしら疾患をもっていますので、日々の変化に気付けるためのフィジカルアセスメント力が求められます。観て・触れて・聴いてと日常のケアからの情報が重要です。

そして、それを多職種に伝える力や患者さん・ご家族から本心を聴き出す力、コミュニケーションスキルも重要です。各受け持ち看護師が主体となって、患者さんの退院調整を行っています。フォローは入りますが、1年目の看護師から退院調整に参加しています。

熟練した看護師ではないと難しいのでは？との印象もあるかと思いますが、昨年より新卒看護師を受け入れており、本年も地域包括ケア病棟を希望して入職しています。介護中心なイメージも

あり、技術面などの習得に遅れをとるのでは？との印象もあるかと思いますが、様々な疾患や処置など (気管切開、胃瘻、透析など) で広く学ぶことができます。特にフィジカルアセスメント、コミュニケーションにおいては、一般病棟よりじっくり学ぶことができます。

患者さん・ご家族との関



「地域で暮らす」をサポートする地域包括ケア病棟で働くチームメンバー



多職種連携の中心となる医療連携・患者支援センター



地域との架け橋となる訪問看護ステーションのお二人

わりをもつことで精神的な成長も期待できます。「自身の関わりが患者さんに伝わった時の充実感がうれしい」と2年目の看護師が話しています。今年の1年目の看護師には「今日は出勤してないの？」と寂しがってくる患者さんがいます。退院調整ができるころには、一般病棟でリーダー的役割が担えると思います。

各職種の得意分野を生かした ケアの提供を

糖尿病療養指導士・NST 専門療法士、認知症ケア専門士・口腔ケア療法士と様々な資格を取得し、それぞれの得意分野を生かして活動しています。患者さん・ご家族の指導などはもちろんですが、症例も多く入院期間も長いので、経過を追うこともでき、スキルアップにつながると感じます。また、患者さんとじっくり向き合うことで改めてセルフケアの大切さを実感し、自分が学びたいことが見えてくるようです。

口腔ケアなどは、介護者も高齢であると教科書の手技のままでは自宅での継続は難しい場合があります。そのような時は、専門療法士を中心に医師、ST、はじめ多職種で「この人に合う口腔ケア」について知恵を出し合います。安価、安全、簡単、きれいをキーワードに知恵を出し合うこともあり

ます。その提案をうまく受け入れて頂いた時は、多職種で共に喜び合う楽しさもあります。

安心して暮らせる 地域の病院を目指して

多職種との連携が不可欠である退院調整では、院内はもちろんですが、福祉サービスや地域を支えている方々との連携が重要です。お互いの活動が見えていない部分もあるかと思いますが、まだまだ利用される方たちが、「地域で暮らす」ということへの理解が乏しいと感じます。

本院は「地域に必要とされる病院」として地域の包括支援に携わる方々と勉強会の協働や地域貢献、市民公開講座などの啓蒙活動を行っています。病院は人・物・情報が十分とは言えませんが、他の施設よりあるかと思っています。超高齢化社会を目の前に、地域に向けた教育などの発信も地域の方と協働していくことが大切だと思います。

本年より、訪問看護ステーションも開設しました。今まで以上に地域の方々と距離が縮まることを期待しています。

私たちは「地域で暮らして時々入院」を目指し、「安心して暮らせる」地域の病院を目指していきたいと思っています。

第51回 看護研究学会報告

(学校法人聖路加国際病院 副看護部長/学術推進委員会 高井今日子)

平成29年度東京都看護協会看護研究学会は、2018年1月20日(土)に「災害看護-看護職としてできること やるべきこと-」をテーマに開催され、口演・示説・創意工夫合わせて33演題の発表があり、515名と多くの方に参加いただきました。

昨年に引き続き、私達看護職にとって常に関心の高い災害看護をメインテーマとしました。特に今回は、新しい試みとして国外の看護職を迎え、シンポジウム「東アジアにおける首都災害と看護」を企画し、様々な災害の体験から看護のなすべき使命をあらためて考えるディスカッションが行われました。中国の張洪君氏(北京看護協会 会長)からは、2008年に発生した地震災害から高まった災害看護についての活動、台湾の楊宜霖氏(馬偕紀念醫院 看護部長)からは、多くの人が集まるイベント会場で起きた爆発事故により多数の熱傷患者を急遽受け入れなければならなかった体験、韓国の田敬善氏(保健福祉部 国立精神健康センター(NCMH) 精神健康事業部 精神健康事業課 チーム長)からは、日本でもよく知られている歳月号海洋船舶事故後、生存者・犠牲者の家族に必要な心理サポートの活動が報告されました。そして日本からは、小松恵氏(岩手医科大学 看護学部特任講師)が9.11同時

多発テロ、東日本大震災の二つの災害とその看護に関わった経験から、都市型災害に活かす看護について話されました。どこの国でも、どのような災害においても発生後、被災者の日常生活に看護が寄り添い、継続的な活動を行うことが必要であるとあらためて実感しました。

特別公演は、救命救急士でもある東京都の災害医療担当課長 清武直志氏より首都直下型地震についての分析、それを反映した災害医療対策についての紹介があり、都民に対する総力戦での救護体制を知ることができました。

また、今年初めて開催した看護研究ミニ講座も、好評のうちにすべてのプログラムを無事に終了することができました。



▲海外からの招待シンポジスト

◀看護研究学会会場



ネイティブスピーカーによる直接指導

「初心者向け英会話研修」2年目突入!

平成30年度は多摩地区出張研修を開始しました!

「平成30年度初心者向け英会話研修」は、多摩地区への出張研修を開始しました。第1期は東海大学医学部付属八王子病院にて「初めの1歩」となりました。「自分の病院で実施してくれるので満足」「楽しい」「リラックスできる」等のお声をいただいております。

第1期(4月24日~7月5日)は多摩地区を含め、総勢143名の看護職の皆様にご受講いただきました。第2期(7月17日~9月27日)は受講総数171名で、当会館及び、稲城市立病院にて絶賛開催中です。多摩地区は毎月に研修場所が変わります。第3期は青梅市立総合病院、第4期は国立病院機構災害医療センター(予定)です。激務の中でも向上心あふれる看護職の皆様方が受講しやすい環境をご提供できるよう今後一層、鋭意努力してまいりますので、皆様ふるってご応募ください。Let's have fun!



ユニフォームのまま、シナリオ作りに挑戦!
(多摩地区出張研修:東海大学医学部付属八王子病院)

【平成30年度初心者向け英会話研修概要】

- ・看護英語コミュニケーション力向上のための学習支援
- ・開催場所:①東京都看護協会(飯田橋) 地下教室(予定)
②多摩地区(期毎4施設)(八王子市・稲城市・青梅市・立川市)
- ・定員:30名/グループ・全8グループ/期
- ・10回コース/グループ
- ・開催期間:3ヵ月間
- 第1期 平成30年4月24日~7月5日
- 第2期 平成30年7月17日~9月27日
- 第3期 平成30年10月9日~12月13日
- 第4期 平成31年1月8日~3月14日

【平成30年度初心者向け英会話研修実施要領(抜粋)】

- 受講証明書発行要件:
全10回のうち8回以上出席
- *振替制度(グループの振替):
※回数:10回中3回は出席扱い(4回目~欠席扱い)
※同じ週のみ振替可能(事前連絡必要)
研修場所毎に実施
(①協会・②多摩地区:①と②の間の振替は不可)
※詳細は各期のチラシをご参照ください

平成30年度 第52回 看護研究学会 お知らせ

テーマ:看護で支えよう 2020

日時:平成30年11月17日(土) 10:00~16:00

会場:日本教育会館 *事前申込 平成30年5月28日~10月9日

1. 研究発表 口演・示説・看護用具創意工夫

2. 基調講演【東京オリンピック・パラリンピックで看護職に期待すること】

講師 宮本哲也氏(公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 部長)

3. シンポジウム【オリンピック・パラリンピックにおける看護職の具体的な支援とは?】

ソウル:開催を経験した立場から/北京:開催を経験した立場から/日本:2020開催国の立場から

4. 看護研究ミニ講座【みつけよう!!身近にある研究テーマ】

5. ランチョンセミナー:先着300名(予定)【パラリンピック選手とその家族が看護職に期待すること望むこと】

東京オリンピック・パラリンピックでは約1,000万人の方の来場が推計されています。2020年8月の東京は、競技と来場者の熱気で、例年以上の気温になるでしょう。その時、看護が支え、伝え、守るものと一緒に考えてみませんか?皆様のご参加をお待ちしております。

☆参加費(当日参加の方は、会場で直接お支払いください)

1) 事前申込:会員 2,000円/非会員 3,000円/学生(含院生) 2,000円

2) 当日参加:会員 3,000円/非会員 5,000円/学生(含院生) 3,000円



平成30年度 第51回 看護学生看護研究学会 お知らせ

テーマ:はばたけ未来へ あなたの看護

日時:平成30年10月2日(火) 12:00~16:00

会場:文京シビックセンター 大ホール

1. 研究発表 口演・誌上

2. 特別講演【途上国医療から伝えたいこと『異文化・異医療』】

講師 赤尾和美氏(特定非営利活動法人 フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN 代表/ラオ・フレンズ小児病院 看護師)

3. 交流ひろば【各学校の看護学生・看護教員の独自性のある取組や学校紹介など】

今年度は、ラオスの小児病院で看護師として活動をなさっている赤尾和美先生をお招きします。海外で地域医療支援の活動を始めたきっかけ、ラオスでの活動の実際、そして活動の中で看護職として何を得られているのか等をお話ししていただきます。看護学生のみならず看護の素晴らしさを知っていただくとともに、将来を考える機会としていただきたいと思います。

※参加受付は終了しました。

お申込みありがとうございました。



毎号、知ってトクする“ちょっと一言”英会話をご紹介します。

Vol.3
Do you have a fever? (熱はありますか?)
Do you have diarrhea? (下痢をしていますか?)

病名には冠詞(a/an,the)がつくもの、
つかないものがあります。

- (1) a/an: a fever (熱), a cough (咳), a toothache (歯痛) 等
- (2) the: the rubella (風疹), the mumps (おたふく), the pox (梅毒) 等
- (3) 冠詞がない: diarrhea (下痢), diabetes (糖尿病), hepatitis (肝炎) 等

病状を表現する場合は、主に「have + 病名」が使われます。注意しなければならないのは、冠詞(a/an, the)がつく病名と、冠詞がつかない病名があることです。既に慣用句のようになってしまっているようですので、病名とともに覚える必要があります。

おたすけワンポイント

英語に限らず、言語は該当する国や地域において数千年にわたる歴史や文化を背景としています。そのため明確な理由、ルール(文法)、社会背景等を理論的に捉えようとするほど実践的会話にはほど遠くなってしまふようです。まずは、フレーズとして覚えるように心がけましょう。Have a nice day!

(英会話研修講師 與座 卓)

東京都看護協会認定看護管理者 教育課程を受講して

医療法人社団仁成会高木病院 看護部長 山崎 あゆ子



私は、平成24年度に東京都看護協会の認定看護管理者教育課程セカンドレベル、平成25年度に同サードレベルを受講し、平成27年に認定看護管理者となりました。当時、看護部長職に就任し数年が経過していました。組織運営に関する様々な場面で意見や判断を求められること、看護職の人材確保定着という大きな課題を継続的に解決していくためには自分自身が看護管理を体系的に学ぶ必要があると強く感じていたことが受講の動機でした。

受講中は、共に学ぶ仲間やアドバイザーの方、看護協会の専任教員からの支援を受け、新たな気づきや価値観を多く身につけることができました。教育課題である看護実践計画書の作成や発表、レポート作成では自分の思いを表現すること、他者へ伝えることの難さを改めて痛感しました。全過程を通して、看護管理の実践に必要な根拠、プロセス、方法論、交渉術について大きな学びの時間であったと思います。また、東京都看護協会の認定看護管理者教育課程は、著名な講師が多いことで知られており、受講者にとって大きな魅力であったと思います。

ここで学んだことは私の看護管理者としての基盤となっており、今でも、何かあれば、当時の教材やノートを眺めては基本に立ち返っています。

現在も西多摩医療圏で、急性期医療を中心とした地域密着型の医療を60年以上続けている病院に勤務しています。この地域で、地域包括ケアシステムの一翼を担い活動していくために、今後も看護管理者としての自覚を持ち、責任と役割を果たせるよう努力していきたいと思っています。

動画でわかる！ 診療報酬改定のポイント

2018年は6年に一度の診療報酬と介護報酬の同時改定があり、4月1日から新たに施行されています。今回の改定は、団塊の世代がすべて75歳以上の高齢者となる2025年に向けた道筋を示す、実質的に最後の同時改定となるため、医療・介護両制度にとって重要な節目となりました。

改定された内容の中でも、看護職にとって関係が深く、知っておきたい項目として「入院部門」が挙げられます。本号では、特に「急性期一般入院基本料」に関する改定のポイントを取り上げ、動画でわかりやすく解説します！

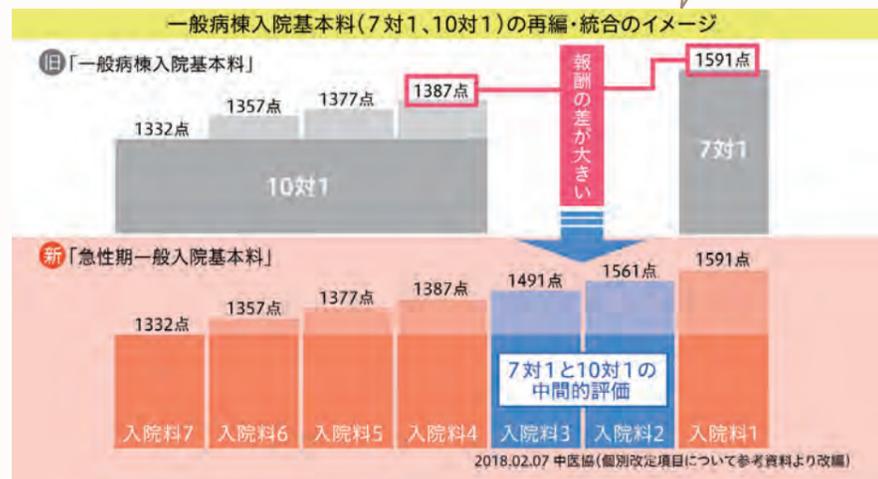
2018年診療報酬改定への対応
(入院部門を中心として)



知って得する！
動画はこちらから

講師：
医療法人財団 岩井医療財団
稲波脊椎・関節病院 総務課課長
亀山 裕史氏

図表でわかりやすく解説！



東京都 ナースプラザ だより

ナースプラザの各事業について紹介します

東京都ナースプラザは「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき、東京都の指定を受けたナースセンターとして、看護職の確保・定着に関する4つの事業、①ナースバンク ②研修 ③看護に関する普及啓発 ④看護職員地域確保対策を行っています。

1 ナースバンク

求人求職・資格取得のご相談、離職時の届出

【看護職の皆さまへ】

ナースバンクはお仕事探しの相談のほか、仕事の継続や復職について等の相談をお受けして、年間3,400人以上の方にご利用いただいています。相談はナースバンク内だけでなく、ハローワーク(7か所)や地域の就職相談会などにも出張して行っています。

お問合せはナースバンクまで
TEL: 03-3359-3388(代表)

【看護職を採用する施設の皆さまへ】

求人票は労働条件だけでなく、施設の魅力を伝える手段です。ナースバンクは「魅力や特徴が伝わる求人票づくり」をお手伝いします。

2 研修

より一層、知識・技術を高めましょう！

離職中の看護職および中小規模施設に働く看護職のスキルアップを図る研修を、年間50科目以上実施し、4,000人以上の方が受講しています。

◆研修内容

- 就業意欲を高める研修
- 資質向上を目指す研修
- リーダーシップ育成研修
- 実習指導者研修・訪問看護師育成研修

詳細は「研修計画」やホームページに掲載しています。お申し込みは往復はがき、インターネットからできます。

3 看護に関する普及啓発

看護の現場を体験してみませんか！

中学生・高校生・看護職を目指す社会人を対象とした、一日看護体験学習を都内の病院等の協力を得て実施し、毎年約1,500の方が参加しています。また、情報誌「やっぱり看護が好き」を発行し、様々な取組をご紹介します。

ホームページ昨年度年間アクセス件数 約13万件
URL <https://www.np-tokyo.jp/>



4 看護職員地域確保対策

看護管理者の皆さまを応援します！

看護管理に関する疑問、困っていることなど、お気軽にご相談ください。医療圏ごとに、看護管理者連絡会議と連携し、研修会等の企画、運営を支援します。

看護職の職場復帰を応援します！

都が指定した病院で年2回(1日、5日、7日の3コースから選択)研修を開催し、受講者3,363名の内、約6割の方が再就職しています。

平成30年度からは、各施設が取組んでいる復職支援研修(半日コースあり)も紹介しています。

お問合せはコールセンターまで
TEL: 03-5229-1525 受付時間: 9時~16時30分 お電話お待ちしております。

平成30年8月現在 工事進んでいます

東京都看護協会 新会館建築状況報告

工事の進捗状況（平成29（2017）年12月～平成30（2018）年7月）
6月に地下工事が完了し、現在は鉄骨の組上げなどが進められています。



平成29（2017）年12月 着工



平成30（2018）年3月 地下掘削工事



平成30（2018）年5月 地下躯体工事



平成30（2018）年6月上旬 南側外壁設置



平成30（2018）年6月下旬 鉄筋組立て開始



平成30（2018）年7月 東南方面から撮影

●新会館建築スケジュール（平成30（2018）年8月現在）



図書室だより

～図書室利用案内～

◆開室日時・休室日

開室日：月曜日～金曜日 9時～17時
第2・第4土曜日 13時～17時
休室日：第1・第3・第5土曜日、日曜日、祝日、
年末年始、蔵書点検期間

◆貸出

図書室利用カードが必要です。お持ちでない方も当日作成できます（要会員証）。
○貸出冊数：1人3冊 貸出期間：2週間
○延長：期限内にご連絡があれば（電話・メール可）、
その本に予約がない場合、1回に限り2週間の延長が可能

◆返却

○時間外は協会入口の返却ボックスに投函可能
（協会の閉館日および閉館時間帯は利用不可）
○郵送・宅配便での返却も可能

◆文献検索

図書室内の2台のパソコンで医中誌 Web の検索が可能です。

◆レファレンスサービス

司書が調べもののお手伝いをします。
資料の探し方や文献検索の方法など、わからないことが
ありましたら、ご遠慮なくお声かけください。
メール（tosh@tna.or.jp）でのご相談も受け付けています。
*ノートパソコンの持込み可能（個人机にコンセント設置）
*無線 LAN 使用可能

蔵書検索サービスのご紹介

1 東京都看護協会のホームページにアクセスして「アクセス・施設・図書室案内」にカーソルをあわせます。

2 「図書室案内」をクリックします。

3 「蔵書検索」をクリックします。

4 検索窓にキーワード（3つまで）を入力して検索をクリックすると、その語句をキーワードに含む資料が表示されます。

平成30年度 春の叙勲

（敬称略）

受章おめでとうございます

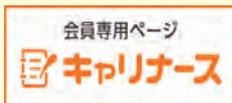
瑞宝単光章

- | | |
|--------|------------------------|
| 河上 淳子 | 元東京都立小児総合医療センター看護部長 |
| 黒田 美喜子 | 元東京都立松沢病院看護部長 |
| 渡邊 千香子 | 元（独）国立病院機構村山医療センター看護部長 |

会員係からのお知らせ

次年度の更新について

◆平成30年11月頃（予定）更新のご案内をお送りいたします。ご案内の発送は9月末（予定）時点のデータとなりますので、住所変更・勤務先変更・改姓等、登録内容に変更のある方はキャリアナースより変更の手続きをお願いいたします。キャリアナースをご利用できない場合は会員係までご連絡ください（下記 TEL・FAX・メールで受付しております）。



退会について

◆看護協会の入会は自動継続です。
次年度継続を希望されない方は、平成30年12月末までに東京都看護協会事業部会員係宛に退会届をご提出ください。
特に、会費の納入方法で口座振替を選択された方は、2019年1月28日に引落しが実行されますので、継続するか未定の場合は会員係までご相談ください。

※退会届は東京都看護協会ホームページよりダウンロードできます。
※退会届は事務委託会社へは送らないでください。



会員特典

◆東京都看護協会会員限定サービスの別冊を同封しておりますのでご覧ください。
また、WEB 限定クーポンもございますので、東京都看護協会のホームページ会員特典よりダウンロードしてご利用ください。



公益社団法人東京都看護協会 事業部会員係

〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町 4-17

TEL: 03-5229-1732 FAX: 03-5229-1524 Mail: nyukai@tna.or.jp

賛助会員募集のご案内

このたび、公益社団法人東京都看護協会では、当協会の公益事業目的に賛同し、活動を支援して下さる賛助会員を広く募集しております。

当協会の活動によって、東京都の皆様、看護職の皆様が健康な生活の実現に寄与するために、企業・団体・個人の皆様におかれましては、格別のご理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お申込みについて】

○当協会ホームページ『賛助会員の募集について』から申込書をダウンロードいただき、
FAX または郵送で受け付けをいたします。 ※詳細は当協会ホームページをご覧ください。
<http://www.tna.or.jp/index.php/sanjyo/>

《お問合せ先》公益社団法人東京都看護協会 総務課 庶務係 TEL: 03-5229-1520